

環境・農水常任委員会 県内行政調査

1 調査日 平成29年9月13日(水)

2 調査の概要

(1) 安曇川人工河川(高島市安曇川町北船木)

アユは、琵琶湖漁業における漁獲量の約40%を占める最重要魚種である。しかし、昨年12月から始まったアユ漁は、かつてない不漁となり、漁獲量の減少のみならず全国に供給する河川放流用種苗や佃煮など加工品材料としても不足するなど大きな影響が生じた。

アユ資源を安定的に維持することは本県水産業にとって極めて重要であり、天然河川の水量や琵琶湖の水位変動の影響を受けない人工河川は、確実にアユを産卵させ、ふ化仔魚を琵琶湖へ流下させる施設として重要な役割を担っている。

また、6月定例会議において、アユの資源緊急対策として人工河川へ放流する産卵用親アユを10トン追加する増額予算措置を行ったところである。

こうしたことから、8月下旬から親アユの放流を行った安曇川人工河川において、アユの資源維持対策の状況について調査を行った。

